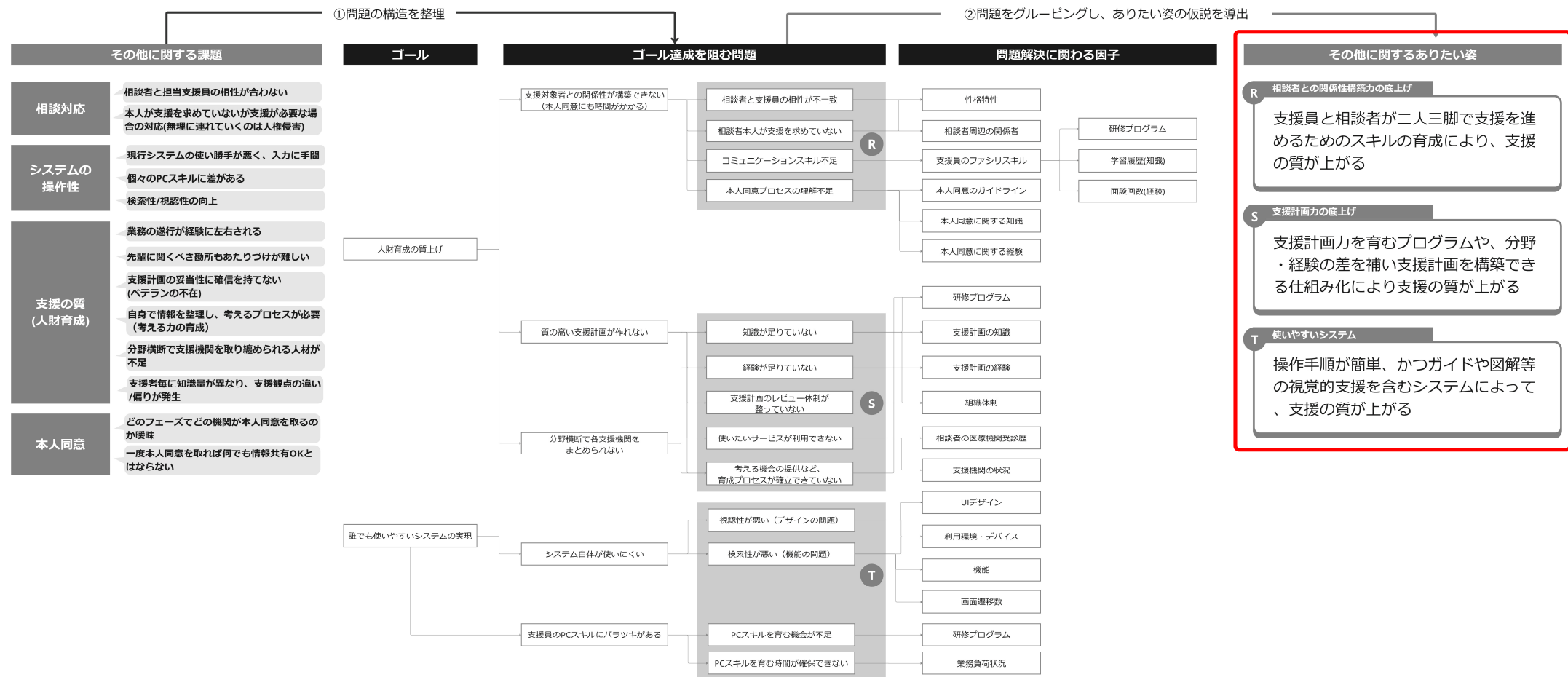


3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.1 課題の分析結果・ありたい姿の導出

その他に関するありたい姿は以下の通りです。



3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.1 課題の分析結果・ありたい姿の導出

導き出された相談業務における「ありたい姿」の仮説一覧は以下の通りです。

書類の作成・記録	関係機関との情報連携	関係機関の選定・調整	ケースの進捗管理	その他
A 目的・ゴールの明確化 記載すべき情報(目的やゴールなどの)明確化によって、面談や記録の質が上がり、支援の質が向上する	F 情報の出し手側の伝え方 情報の出し手が、受け手機関への配慮と敬意をもって、相談の目的やゴールを含めて情報共有出来る	K 資源や制度情報の集約 最新の地域資源情報や制度情報が集約されることで、必要な機関の検索・選定や調整の負担が軽減される	P 進捗管理/フォローの抜け漏れ防止 継続的支援の中で、支援者が相談者の現状(状態や進捗状況)を迅速に把握出来ることで、支援の質が上がる	R 相談者との関係性構築力の底上げ 支援員と相談者が二人三脚で支援を進めるためのスキルの育成により、支援の質が上がる
B 伝わりやすい表現や記載量 どの機関が見ても正確に伝わる表現を、適切な量で伝えることで記録の質が上がり、支援の質が向上する	G 情報の受け手側の受け止め方 情報の受け手が、共有された情報の解釈や、観点の違いを埋める合意形成スキルが育まれ、連携の質が上がる	L 自立能力を有する方へのアプローチ 自立の見込みがある人に適切な情報を届けることで、相談者の自立を促し、支援員の負担が軽減される	Q 過去・類似ケースの検索 過去の関連資料や類似事例が簡単かつ素早く実施出来ることで、負担軽減と共に、迅速なフォローの実現に繋がる	S 支援計画力の底上げ 支援計画力を育むプログラムや、分野・経験の差を補い支援計画を構築できる仕組み化により支援の質が上がる
C 資料毎のバラつき低減 共通ルールに則り、記録資料の品質バラつきが減ることで、支援員の負担が軽減される	H 複数機関への重複説明 必要最低限の手間で、複数機関に素早く情報連携でき、支援員の負担が軽減される	M 支援体制の整理(リード機関など) 複雑なケースでも、適切な支援機関体制やリード機関を迷わず選定し、調整できるようになり、支援の質が上がる		T 使いやすいシステム 操作手順が簡単、かつガイドや図解等の視覚的支援を含むシステムによって、支援の質が上がる
D マスキング条件の明確化 マスキング条件や、共有・開示範囲が明確化されることで、書類作成時間が短縮され、情報共有が活性化する	I アクセスコントロールやセキュリティ 共通ルール、システムにより、迷わず安心して共有・開示範囲を定められる事で、連携の質向上と迅速化が進む	N 日程調整の負担軽減と関係性構築の両立 相手との関係性を深めながら、全ての機関に対する日程調整がワンストップで進み、支援員の負担が軽減される		U 先輩との相談前の行動 サクッと手元で調べられる
E 心理的安全性 相談者と支援員の双方に心理的安全性を高めることで、素早く情報が引き出せるようになり、支援の質が向上する	J 抜け漏れの無い迅速なロジスティクス 情報入手後の内部展開や、すぐに回答できる体制構築により、連携の質向上と迅速化が実現される	O 会議場所の予約・確保 参加機関に応じた会議場所がすぐに関わり予約できることで、調整が迅速に進み、支援員の負担が軽減される		V 統計・実績管理の手間解消 統計・実績を楽にしたい

3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.2 検討会2回目～デジタル化の方向性～

検討会2回目の目的

検討会1回目の内容や追加インタビューを踏まえ、業務プロセスとの中で課題と思われるポイントを整理し、ありがたい姿仮説やデジタル化アイデア例を加えたExperience Tableを活用し、参加者の方々の想いを深掘りさせていただきました。

検討会2回目の実施概要

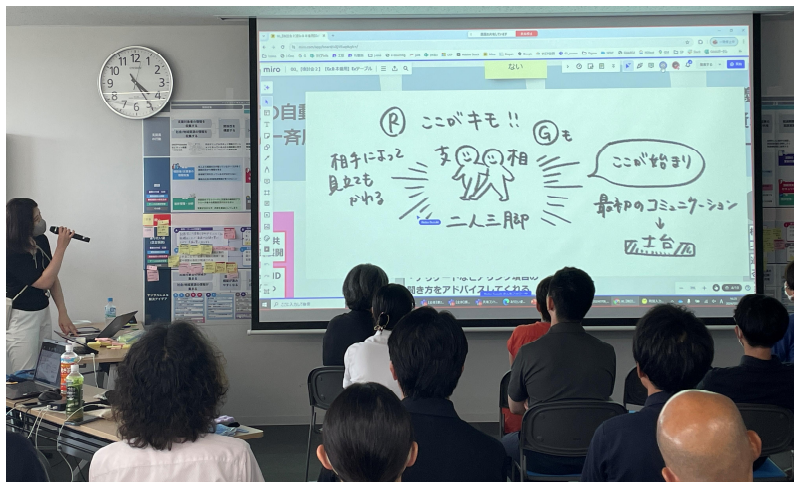
検討会2回目では3グループに分かれてディスカッションを実施しました。グループごとの議論サマリはP.62以降に示します。

グループA：中核地域生活支援センター（市原圏域）、柏市、市原市

グループB：市川市、船橋市、中核地域生活支援センター（市川圏域）

グループC：木更津市、香取市、千葉市

WS風景



討議フレーム (ExperienceTable)

[illegible]